

2017年度 年主題「愛されて育つ」

1・2歳児 7月主題「きもちよく」
 月のねがい
 ◎イエスさまを身近に感じる
 ◎土・砂・水にふれ遊ぶ
 ◎暑さや感染症から守られながら健康に過ごす

3・4・5歳児 7月主題「気持ちよく」
 月のねがい
 ◎友だちや保育者と思いを合わせて、祈る
 ◎土・砂・水に親しむ
 ◎遊びたい友だちや、やりたいことがはっきりしてきて遊びが続くようになる
 ◎体を洗ったり、着替えたり、木陰で休んだりすることを快く感じる



海あそびに行ってきたよ!

今年は雨が降らないなと思っていたら、種子島もやっと梅雨らしい天気になってきました。恵の雨とはいっても、降り出すと怖いぐらいの降水量で、被害が出ないことを祈っているところです。

先日は週間予報から判断し、予定を繰り上げ、浦田海水浴場に行ってきました。朝からそれぞれが水着に着替えてワクワクしながらバスに乗り込みます。およそ25分の浦田までの道のりを、海の歌を歌いながらわいわい過ごしている間に海水浴場に到着しました。

浦田の海は日本でも有数の美しい海水浴場で、種子島の自慢のひとつです。高まる気持ちで子どもたちと砂浜におりていくと、「ザブーン、ザブーン！」波の打ち寄せる音、きらきら光る水の輝き。子どもたちは思い思いに波打ち際に足を進めて、まずは夏の海にごあいさつです。そんな中、波が少し怖い子どももちらほらいます。砂浜で穴を掘ったり、山をつくったりして過ごしていましたが、しばらくして先生に誘われ、おんぶで海の中へと誘われる姿が見えました。始めは怖がっていた顔も、先生と一緒にいるうちに、波に体を任せ気持ちよさそうに浮かんでいる姿が変わっていきました。苦手な気持ちを克服し、楽しい気持ちが勝った感動の瞬間でした。集団で過ごしていると、友だちや先生から刺激をもらい、挑戦する気持ちもわいてくるのでとても嬉しいです。一緒に遊び、楽しい経験を積んでいくことのできる喜びをかみしめながら帰ってきた一日でした。

園長



7月の行事予定

5日(水)	プール遊び(市営プール) ・弁当日
7日(金)	七夕訪問
15・16日	お泊り保育(年長児)
19日(水)	一学期終園式 (1号午前保育)

8月の行事予定

1日(火)	夏季保育(午前保育)
4日(金)	夕涼み会
19日(土)	おやち保育
21日(月)	夏季保育(午前保育)

今月の聖句

ひかりのこどもらしくあゆみなさい。

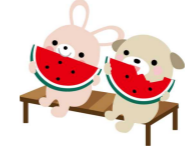
エペソ5:8

光は人類や動植物にとって不可欠です。まず、その特質を考えてみましょう。

- ①光は恵。地球上の人を含めてすべての動植物は太陽光によって暖を得、食物を頂きます。
- ②光は人の魂に語りかける。歌を創り、歌を歌う心を持つ。絵を描き、鑑賞する。詩や短歌、俳句を詠み、これを互いに味わい魂が喜び揺さぶられます。
- ③光は人生の教師。危険な場所を知らせ、正しい道程を示します。
- ④光は恐怖。時として光は恵だけでなく、人類に災いをもたらすこともあります。例えば稲妻、雷、放射能(放射能も光の一種)、惑星飛来等宇宙が破滅する日がいつか来ます。
- ⑤光は救い。光の最大の恵は人類の魂の救いです。聖書では天地創造の第一番目に「光」を創られたと記しています。そして、救い主のことを「光」(ヨハネ福音書1章9節参照)として表しました。救い主キリストは人類に恵みを与え、信仰を呼び起こし、よき教師となり、人類を裁かれます。上記の光の働きをすべてもっています。

「光の子らしく歩きなさい」とは人類が光である「救い主」の子として存在していますので、「光の子どもにふさわしい人生を送りなさい。」ということです。すなわち自分が恵まれているように、人に恵みを分かち合い、人に詩的こぼれを語り、人を導き、神とともにあることの平安を分かち合うことになります。

前理事長 池田公栄



燃やすための手紙

空梅雨の予感がしていた六月前半でしたが、後半はしっかりと梅雨を味わうことが出来ました。各地の水瓶は十分満たされたでしょうか。やはり今年の夏も暑さが厳しくなりそうです。夏バテしないようにしっかりと睡眠と栄養を取って、子どもたちに負けないようにしたいものです。

世界では、相変わらずテロや暴力のニュースが後を絶ちません。国内では、ある女性による部下に対する罵詈雑言の音声と、日本中に流れや疑念に乘じて、明けても暮れても批判合戦と言われ失言や疑惑に乘じて、明けても暮れても批判合戦ばかりが耳に付きます。

リンカーン大統領の部下だったスタントン国務長官は、自分に対する批判や非難が耐えられないほど苦手でした。身に覚えのない非難に対する怒りを大統領にこぼすと、「厳しく抗議の手紙を書いたらどうだい?」とアドバイスを受けました。そこで彼は、激しい言葉で満ちた手紙を書き上げ、大統領に見せたところ、「君はこの手紙をどうするつもりかね?」と意外な言葉が返ってきました。戸惑いながら「どうって、もちろん送るんですよ!」と答えると、大統領はこう言いました。「君は本当はこんな手紙は出したくないんだろう。今すぐストーブへ投げ入れてしまいなさい。私は怒ったときにいつもそうしているよ。でも、書いたことは大いに意味のあることだ。すっきりしただろう?」まさに暴力を用いずに怒りを処理する効果的な方法ですね。

誰でも怒りを覚えることはあるものです。怒りによって誰かを攻撃したいという思いに駆られたとき、如何にして感情をコントロールできるかが重要です。とても難しいことですが、まず自己の感情を探り、ありのままに受け入れることだと思えます。その上で、適度な運動や休息、笑うことや奉仕なども効果的かもしれません。静かに瞑想したり、相手のために祈ることも結構よいものです。

「暴力は、結局自己破滅に至る。やった側には苦しみ、やらされた側には残念さが生じるのだ」(マーティン・ルーサー・キング牧師)

海や川、山や野原で走り回り、カニや小魚やカブトムシを追いかける。生涯の基となるこの時期を、家族や友だちとこの島で過ごす子どもたち。なんて素晴らしい時間を与えられたことか。どうぞキラキラする宝物のような瞬間を皆さんで楽しんでください。

いよいよ年長児はお泊まり保育が迫っています。めいろうの子どもたちと交わりを楽しむ時が来ました。きつと子どもたちにとつて忘れられない素晴らしい思い出となることでしょう。子どもたちのために今できることを、皆さんが共に整えてくださることに心から感謝いたします。

学園長

今井和子先生の「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」より

「0歳児 何でもものを舐める」

悩み: ハイハイができるようになったら、何でもさわって舐めまわします

行動の意味: 舐めることで、ものを認知しています

ハイハイができるようになると、いろいろなところに移動できるので、好奇心も旺盛になります。

見るものすべてが赤ちゃんにとっては新鮮で、これは何だろう?と手に取って、真っ先に口に持っていきます。なぜなら、この時期の赤ちゃんにとって、口の中が一番大事な認知機能だからです。

舌で舐めてザラザラした感触や冷たさ、温かさなど、ものを認知していきます。

赤ちゃんは、舐めて確かめないと気がすまないのです。

対応法

舐めまわすことを十分にさせてあげましょう

子ども本来の好奇心や探索心を育てるためにも、「見て、さわって、舐める」という行為を十分にさせてあげましょう。これはやがて自分でつかんで口へ持っていき、食べることへの喜びにもつながっていきます。

舐めることで、感覚機能も知能も育つのです。

また、赤ちゃんは、取りあげられることを一番嫌がり、探索欲求も損なうことになるので、舐めているときは好きなように舐めさせてあげましょう。

10か月ごろになると、小さなものもつまめるようになるので、誤飲事故を招くような、小さなボタンやクリップ、電池、口に入れたくない汚いもの、危ないものなどは、手の届くところに置いておかないように注意しましょう。